

整容的手術が行われる。

3. 酒皰様皮膚炎 rosacea-like dermatitis ★

同義語：口囲皮膚炎（perioral dermatitis），ステロイド誘発性皮膚炎（steroid-induced dermatitis）

Essence

- ステロイド外用薬を顔面に長期使用することで、酒皰に類似した紅色丘疹、びまん性潮紅、痤瘡が発生する。
- 治療はステロイドを中止したうえで、尋常性痤瘡に準じる。

症状

中年女性に好発し、不適切なステロイド外用による副作用の代表である。ステロイド外用部位に一致して、紅斑、毛細血管拡張、丘疹、膿疱、びまん性潮紅、落屑を生じ、瘙癢や灼熱感を伴う（図 19.11）。皮疹が口囲に限定されているものを口囲皮膚炎（perioral dermatitis）と呼ぶ。

病因

ステロイド外用薬の長期使用による表皮萎縮、血管拡張などの副作用が基本。ステロイド外用薬が、炎症などによって刺激された角化細胞の TLR2 を過剰発現させ、自然免疫系を介して発症するという説もある。

治療

ステロイド外用薬を中止する。これによりリバウンド（反跳現象）が起こり、発赤腫脹の増悪、びらんが数週から数か月持続する場合がある。この症状を緩和するため尋常性痤瘡に準じた治療を行う。タクロリムス外用薬も有効であるが、逆に酒皰様皮膚炎を増悪させることがあり注意を要する。リバウンドが激しい場合は、ステロイド外用を再開し、使用量やランクを徐々に下げていく。

4. 顔面播種状粟粒性狼瘡 lupus miliaris disseminatus faciei ; LMDF ★

同義語：acne agminata

Essence

- 主に顔面（とくに下眼瞼など）に常色ないし紅色の2～5 mm 大の小丘疹が多発する疾患。自覚症状はない。



図 19.11 酒皰様皮膚炎（rosacea-like dermatitis）
1 か月間ステロイドを外用しつづけた患者に生じた皮疹。びまん性潮紅、落屑、瘙癢、灼熱感を伴う。